

博物館だより

第35号

小正月とモノヅクリ

●●●●●●●● 県内の民俗調査から ●●●●●●●●

◀南相木村中島 ハナを削る

稲・米・麦・粟・大豆などの花に見立てて又ルデの木を削り、ハナと呼ばれる削り掛けをつくります。生業において、馬や牛の糞は貴重な肥料として考えられていたため、堆肥小屋などに飾り豊作を祈りました。



阿南町新野 オマツサマ（門松）……………▶

1月11日になると、若木を割ってタワラと一緒にオマツサマに飾ります。若木をたくさん立て掛ければ豊作になるといわれ、松を飾ったハングイと呼ばれるY字状の枝木は、農作業でワラを運ぶときなどに使います。

はじめに

モノヅクリとは、一般的に小正月に行われる^{よしゆい}予祝行事のことを指します。県内ではマユタマ、モメンダンゴ、イネハナなどと呼ばれる米の粉や餅でつくったダンゴを木に飾るもの、稲の花などに見立ててつくる削り花、そして^{くわ すき}鋤、^{まんが}馬鋤、^{きね}杵などの農機具の模型や道祖神の^{かみゆ}人形、粥かき棒や小豆を食べるための箸などのモノヅクリが見られます。また、^な成り木^ぜ責めや田植えの真似をして作物の豊作を祈願する行事や小豆^{かゆ}や粥などによる^{ほうきょう}豊凶の占い、^な災厄や病気を払おうとするドンド焼きや鳥追い・モグラオイなどの行事を行うところもあります。

古くは、月の満ち欠けにより、満月から満月までの間を1ヵ月と定める暦法によって人々は生活し、満月を年の始めとしていました。それが、中国からの暦法が入ってきたことによって、^{ついで}しだいに朝日を大正月として祝うようになり、旧来の15日正月を小正月とするようになったため、様々な正月の行事が小正月に集中して残っているようです。

そこで、県内の様々なモノヅクリを追いかけていくことで、人々の素朴な願いが反映されている小正月行事の姿に迫ってみようと思います。

鬼よけのまじない

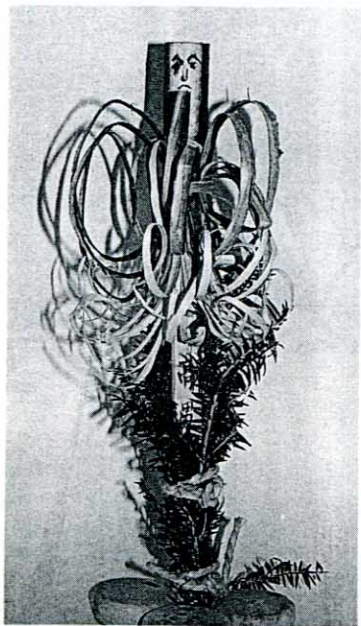
4年に一度、うるう年と呼ばれる年は2月が1日増えますが、小谷村ではこのうるう年にひっかけて、鬼を追い払うためのまじないが行われています。

清水山では、クルミの木板に十二月と書き家の窓や出入り口などに飾ります。「小正月のときに鬼がやって来て、家の中に入ろうとすると十二月とかいてある。はて、今年^{かへ}はうるう年で一月多いから十三月のはずなのにおかしいな、とキョロキョロしているうちにガヤ^{かや}(榎)の葉で目をついて逃げて行く」と伝えられ、うるう年は「十二月」、通常の年は「十三月」と反対に書いて鬼をだましました。春や夏に

モグラが出ると、その土のところに十二月の木板をさしてモグラや害虫よけとしても使いましたが、今ではクズ屋根の家も少なくなり、十二月の木板をさす家も少なくなっています。

また、^{おあみ}大綱でも^{たかねこ}高男と呼ばれる人形をつくり、屋根や竿の上など高いところに飾りました。「鬼は背が高く、高男と背比べをしていくんだ。自分の方が背が低いと分かると、こりゃかなわん、といって鬼は逃げていく」と伝えられ、いずれも鬼よけの呪具としてつくられます。

◀清水山の十二月と書いた木板
(上にガヤの葉をさす)



◀大綱の高男(クルミの木を削り、ガヤの葉を巻き付ける)

米俵に見立てたモノヅクリ

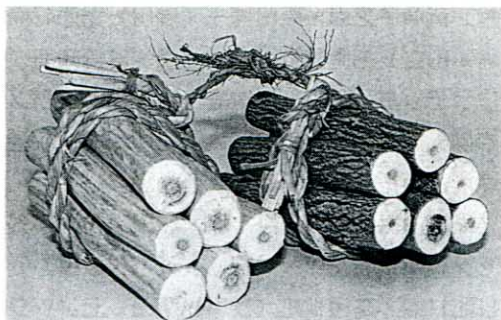


このた
南信濃村此田では、1月14日になると、クルミやフジなどの木で米俵に見立てたフクダワラをつくり、エビス様や七福神などに供えます。昔は稲作中心だったので、フクダワラには「金」と「米」のみを書いていましたが、現在では、茶、梅、^{しいたけ}椎茸、山菜、^{こんぶ}蒟蒻などをつくるようになったため、フクダワラに書かれる作物も年々変わっています。そして、31日になるとフクダワラをおろし、晩のお年取りの御飯を炊く^{まき}薪として使います。

◀エビス様に供えたフクダワラ

粟穂と稗穂を型どったホンダレサマ

^{あわほ}茅野市玉川では、ヌルデの木でホンダレサマなどのモノヅクリをしました。皮を剥いだものを粟穂、剥いていないものを稗穂とし、豊作で穂がたれている様子を表わしたもので、旧暦の頃は30日ある月を「大の月」、29日ある月を「^{だい}小の月」と呼び、6本ずつつって12ヵ月分として台所や神棚などに供えました。粟や稗をつくらなくなるとともに、このようなモノヅクリも見られなくなりました。

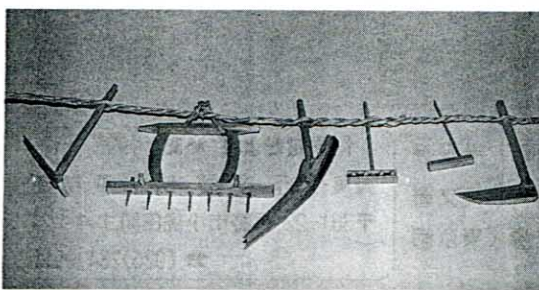


▲ホンダレサマ

おわりに

長野市吉田鍋屋でも、綿の栽培が中心だったころはモメンバナといって米の粉を丸くして木に飾っていましたが、養蚕業が盛んになった頃から繭の形としてつくるようになりました。また、長野市若穂高岡でも、養蚕が盛んな頃の名残として、現在も大判・小判や財布などの飾り物とともに米の粉でつくったマユダマが飾られます。

このように、小正月のモノヅクリには、豊作を祈る予祝行事の面だけでなく、その時代ごとの商品作物、社会や経済の状況などが敏感に反映されています。また、常に変化していく人々の素朴な願いも、小正月行事を通して見ることができるのです。 (文責 辻 浩子)



◀長野市芋井広瀬のモノヅクリ

ヌルデの木で鋤・馬鋤・^{すき}犁・熊手・杵・鎌などの農機具の模型をつくり、神棚に供える。

寄贈者・寄託者の紹介

平成7年度も多くの資料の寄贈・寄託をいただきました。厚くお礼申し上げます。

(敬称略・順不同)

寄贈者

《歴史》

岡田豊安(安茂里)千人針他15点

《考古》

倉沢ひさ(富竹)埴輪複製品73点

《民俗》

轟春義(大豆島)座繰他2点・千原勝美(浅川)シンガーミシン1点・寺島司(御厨)五月人形他16点・野村勲(中御所)黒留袖他4点・和田耕平(若穂)ゴザ付日和下駄他6点・峰村静夫(中氷鉤)背負子2点・原田純一(浅川)鋸他42点・松山忠雄(栗田)庚申講掛軸1点・田立地区(南木曾町田立)花馬祭りのハナ4点・宮崎知迪(篠ノ井)庚申講掛軸他2点・井出恒徳(小海町親沢)ワラデッポー1点・木次静一(北相木村宮ノ平)ワラデッポー1点・古畑辰夫(小田切)三竈神社の御札他4点・高峰寺(大岡村聖)種蒔会種兆他7点・古幡勝彦(木曾福島町黒川)モノヅクリ2点・遠山正敬(上村中郷)モノヅクリ1点・山岸正徳(小谷村清水山)モノヅクリ他15点・小林勝(栄村白鳥)コウツキ1点・原田哲郎(茅野市玉川)モノヅクリ他4点・腰下倉臣(南信濃村此田)モノヅクリ他20点・関福盛(天竜村坂部)モノヅクリ他30点・竹田保彦(天竜村大河内)モノヅクリ他11点・高橋秋雄(秦阜村温田)モノヅクリ他9点・上深沢地区(小田切)ドウソジン他6点・坂高木地区(芋井)道祖神日待穂兆の記録2点・中島至静(南相木村中島)モノヅクリ28点・須藤袈裟男(佐久市香坂)モノヅクリ7点・小須田盛凰(佐久市瀬戸)モノヅクリ10点・今井教義(小谷村大綱)モノヅクリ他24点・柳沢右三郎(望月町茂田井)モノヅクリ他8点・谷地区(豊田村谷)ドウロクジン1点

《自然》

中塚敬之助(京都市)クモヒトデ化石他一括・高松良尚(西長野)球果化石1点・両角和子(篠ノ井)ペグマタイト鉱物他9点・福田俊信(東京都葛飾区)鉱物37点・相沢睦彦(松代町)温泉水噴湯石灰岩塊4点・浅波敏美(石堂町)エジプト砂漠の砂・荒井百年(上松)ハワイ島キラウエア火山の溶岩と砂・竹内恵子(松代町)ハワイ島溶岩砂

寄託者

《歴史》

山崎喜弘所蔵文書(妻科)宮大工にかかわる近世から明治にかけての文書と図面一括・中沢総二所蔵文書(西町)善光寺町の町方文書一括・町田祐幸所蔵文書(川中島町)収集文書を含む更級郡今井村の地方文書・寺沢隆夫所蔵文書(東京都世田谷区)更級郡岡田村の地方文書一括

博物館だより №35 1996.3.13
編集・発行 長野市立博物館
〒381-22 長野市小島田町1414
☎(026)284-9011